

北海道酪農実習に参加して

れ今後村の指導のもとに、
たいと念願するものであります。

米作り一本の農業から畜産を導入し、村の農業経営の改善、酪農振興のために現在酪農を経営している農家の中堅、藤田一郎（湯上）成田一雄（横曾根）通口重太郎（北野）金子光威（橋本）石添義克（岩室）の五人の人達が去る七月二十一日から八月三までの二週間北海道酪農の現地研修に派遣されました。一行は札幌市の方二十数ヶ所江別市の農家に分宿し、その家人達と対食をしていいる酪農と比較検討しつつ体験を通して北海道酪農の生の姿にふれて、自分達の村でやつて以下五人の人達から北海道の様子や感想を述べてもらいました。（順不同）



藤田一郎

昭和39年9月1日
七月二十一日朝七時、和納駅を後に我々一行は元気で出発。羽越線不通のため仙台経由東北本線で青森へ、零時三十分船の人となつて、波静かな夜の津軽の海を越えて朝五時半函館港へと。到着。羽越線不通のため仙台経由東北本線で青森へ、零時三十分船の人となつて、波静かな夜の津軽の海を越えて朝五時半函館港へと。

市野駅へと。

沿線の草原に赤い屋根。

高いサイロが見え始め、牛

が草をくつてのんびりとし

ている。

ああ北海道へ来たかと、実

入る。草地で採食させ、そのため

に乳牛の筋は張り体積のあ

る。健康牛が多くたたようで

次第です。

ああ北海道へ来たかと、実

入る。草地で採食させ、そのため